

千代

○針箱に絡み合ふ糸年の暮

○小春日の丘に姫のわらべ歌

鴨日和カメラ談議に沸く岸边

晴美

鴨浮かびおなばれ進む川堤

清流を守る集ひや鴨の川

籠もる日の子等に送るも年用意

ふみ子

水際を鴨の抜け毛の流れおり

スーパ一の紙の門松年用意

湯治場に背丈を超える枯尾花

農子

○数え日の何度も探す落し物

霜の朝静かに進む鴨の列

WiFiの要る生活なり年の暮

初江

○エンディングノートは白紙年暮るる

年の瀬や隣に赤子越して来し

スーパ一に煽られている年の暮

富江

兄逝けど届くカレンダー故郷の

忘年会体操グループ老の喜よ

親鴨に幸せそうね水脈へ



弘

○煤逃げのスマホ震える映画館

○年の暮涙袋のまた太り

旧年の鴨居の疵も懐かしき

丞子

数え日の日捲り暦母の部屋

下校の子めがけ溼起つ鴨の群れ

母ひらく白寿の寅の初暦

美和

○歩きより這い這いえらび師走の児

高知城師走満月拳げにけり

特急の雪と格闘せし車輪

郁子

鴨の二羽睦み水尾ひく夕明かり

あきもせて終日もぐる鴨の岸

万両の実のふくよかに紅の玉

酔花

○チャンネルを囲せば世間が雪崩れ込む

○日の暮れるように黒猫小さくなり

寒からん猫だき何もせず灯る

えり

年の暮猫の念入り身繕い

姐よ今年も捨てず葱きざみ

錦蔦枯枝先にのぼり照る

夕子

○買出しの妻にしたがひ行く師走

恒例の掃除特番師走来る

鴨の群飛翔着水又飛翔

万貴

○過ぎたるを好まぬ猫と年暮るる

○逡巡にちようどの灯り石路の花

秋水に手招きされて鷗外へ

志津子

手抜きしてどうにか一人の年用意

着ぶくれて回覧配る昼下がり

人並の幸せて良し冬桜

一枝

○暮早し札所寺への道しるべ

りよう丸一羽の鴨に見送られ

ふるさとの初雪ラインで届く朝

富子

煤はらい育児日記に時忘れ

迷い鴨稚の鳴き声にも聞こえ

渾身のシュートレン焼く聖夜

味元 昭次 作品

煤逃の男が買いいし帽子パン

着水の十羽の鴨に十の水脈

鴨翔つや明るき明日のあるように

★次回市民句会

【開催日時】

令和四年一月二十六日(水)

午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます